TOPIC 1

誰もが受け入れられる教育を目指して
～障がいのある子どもたちを学校へ～

日本の皆さまからのご寄付を活用しているブルキナファソでは、小学校の就学率が86.1%（2015-2016年）と大きく改善されてきている一方で、障がいのある子どもの多くはいまだに社会の片隅に取り残され、教育の機会を奪われています。**身体的な障がいのある子ども**のわずか27%しか教育を受けることができません。

アニマータさんは歩行に障がいがあるために、特別な三輪車を使って毎日、通学しています

毎朝、三輪車に乗る手助けをしてくれるお父さん。「娘のことを誇りに思います。通学できるなんて以前は想像もしていませんでした」

マイガ校長「アニマータはとても活発な子で、彼女をすぐ受け入れ手助けしてくれたクラスメイトのことが大好きです」

サヘル地方に住む10歳の女の子アニマータさんは、胸郭のゆがみが原因で歩行に障がいがあります。これまで学校に通うことがかなわず1日の多くの時間を家の中で過ごしてきました。両親はアニマータさんの障がいについて正しく認識できていませんでした。「彼女が生まれてきたときに障がいのことは気づきませんでした。大きくなって歩き始めたときに、初めて障がいがあることがわかったのです」と母親は話します。

カッチャリ小学校のマイガ校長は、教師や父母会のメンバーとともに、学校に通っていない障がいのある子どもを見つけ出し、学校で受け入れるための研修に参加しました。研修では、障がいのある子どもをどのようにケアすればよいのか、両親たちをどのようにサポートすればよいのかについても学びました。研修後、マイガ校長は、両親にアニマータさんを学校に通わせるように説得しました。

ユニセフの支援により、アニマータさんは小学校へ入学すると同時に、治療を受けられるようになり、通学のための特別な三輪車と学用品も提供されました。小学1年生のクラスに遅れて入学することになったアニマータさん、最初の学校生活は順調ではありませんでした。アニマータさんは他の子どもたちと自分が異なっていると感じ、孤独を感じてしまったのです。そんな時先生は、いつもアニマータさんの手を取り、他の子どもたちの輪の中へ連れていきました。学校内で障がいのある人たちへの偏見をなくすように働きかけを続けた結果、アニマータさんは学校生活にうまくなじむことができました。**「友達に囲まれて学校に通うことはとても幸せです」**とアニマータさんは嬉しそうに話してくれました。

日本の皆さまからのご支援の成果（2016年8月～ 2017年7月）

- 学校に通っていなかった障がいのある子ども1,634人（女の子745人）を見つけ出し、**通学の支援**を提供しました。
- 教師や教育専門家236人、100つの学校管理委員会メンバー、30の市民団体を対象に、**障がいのある子どもなど誰もが受け入れられる教育**について研修を行いました。

写真©UNICEF/Burkina Faso/2016/Tarpilga